

デザイン支援

あおとはな

自分がときめく雑貨を。
ご当地グッズを開発し、
新たなお土産ラインを考案



幼いころから雑貨好き。
皆さんからのご要望をもとに
アイテムを増やしたい!

雑貨バイヤーのキャリアを活かして開業

秋田県出身のあおとはなさんは、子どものころから雑貨や文具が好きだった。東京の総合商社に就職し、雑貨のバイヤーとして勤務した経験を持つ。当時、東日本大震災を経験し、自身や家族について考えることも増え、秋田に帰郷したが、雑貨を取り扱う店舗が少ない。自分のバイヤーとしての知識やコネクション、キャリアを活かすことができないかと考え、店舗を持たない雑貨店として令和4年5月に開業した。

オリジナルのご当地雑貨を開発するにあたり、秋田らしさを表す商品の企画の立案に取り組んだ。第一弾として販売したのは、秋田犬やなまはげ、竿燈まつりをモチーフとしたイラストを使った、コーヒーのドリップパックだ。コーヒーは秋田の珈琲専門店のもので、イラストは秋田在住グラフィックアーティスト「bias」さんに依頼した。裏面には、秋田の文化を知ってもらうため、イラストの説明を記載している。あおとはなさんは「秋田のことを知っていただくために、ストーリーをもたせた商品開発を心がけたい。」と商品化への思いを伝えてくれた。

ご当地アイスの可愛らしさを雑貨に投影

商品化への強い思いを抱いていたのは、黄色とピンクという色合いが雑貨にしやすい秋田のご当地アイス。活性化センターのデザイン支援を活用し、実現のための助言を受けた。その後、男鹿市の児玉冷菓にコラボレーションを提案して開発されたのが「あきたのあいす」シリーズだ。現在、秋田県の形をした黄色やピンクのクリップ、ステッカー、ポストカード、メモ帳などを販売している。できる限り、秋田県内で製造してきたいという思いから、メモ帳の印刷は、秋田市の文具・事務機器販売店「有限会社 金圓」に依頼。リソグラフ印刷機で製造を行っている。

オリジナル商品は、秋田市文化創造館や、秋田県立美術館のショップ、秋田空港などで販売しており、取引先からは、新しい雑貨の要望を受けることもある。

「ご当地雑貨のニーズを感じています。ひとりで事業をしているので、デザイン支援のサポートがありがたい。これからも秋田らしさを表現した、キュンとする商品を開発したい。」と意気込みを語った。



あおとはな
https://www.instagram.com/aohana_zakka/

【主な販売場所】
秋田市文化創造館
秋田県立美術館
秋田空港 など



『あおとはな』
Instagram



『bias』
Instagram

▶活用事例
デザイン支援

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言や、デザイナーとのマッチングを支援します。

【お問い合わせ】
知財・デザイン支援課
TEL. 018-860-5614



蛍光のピンクや黄色のカラーリングで「あきたのあいす」を表現。手軽に購入できるアイテムばかりだ。



あおとはなさんの世界が広がる秋田市文化創造館の売り場。自身が欲しいと思う商品を仕入れ、卸売もやっている。



ヤマキウ南倉庫POPUP出店時の商品。買い手と顔を合わせて反応を見られる、貴重な機会でもある。